

り、左右に柳櫻をうゑさせけるよし、鹽尻十五に見ゆ、路傍に菓樹を植し事、續紀三代格などにあり、櫻を植しは義家朝臣の歌によめり、松の並木松平の義にや、

〔類聚三代格七〕乾政官符

應畿内七道諸國驛路兩遍種菓樹事

右東大寺普照法師奉狀稱、道路百姓來去不絕、樹在其傍、足息疲乏、夏則就蔭避熱、飢則擿子瞰之、伏願城外道路兩邊、栽種菓子樹木者、奉勅依奏、

天平寶字三年六月廿二日

〔類聚三代格十二〕太政官符○中略

一 應禁制研損路邊樹木事

右同前解僕道邊之木、夏垂蔭爲休息處、秋結實民得食焉、而或頑民徒致伐損、去來之輩並失便宜、望請特加禁制、莫令更然者、依請、

以前右大臣宣奉勅如件、諸國宜准此、

弘仁十二年四月廿一日

〔延喜式五雜凡〕諸國驛路邊植菓樹、令往還人得休息、若無水處、量便掘井、

〔徳川禁令考五十九經壤端界〕延寶七末年三月廿九日

並木之松植立之儀達

一 奥州海道之道筋並木之松ニきれ候所數多有之由候間、早々手代遣之爲見分、相應之松木植候様可被申付候、大成木つきかね可申候間、小ぶり成木を植させ可被申候、但右之松木植候人足扶持、今度ハ從公儀可被下候條、木數人數等吟味之上、委細書付記之可被得下知候、若相應之松木、御代官所之内近邊ニ無之候ハマ、何様可被申哉、其段も可被申越候並木之